

地震や火災に備え、災害に強いまちづくりのために

〜揖斐川町総合防災訓練〜

揖斐川町総合防災訓練が、防災センターを兼ねた揖斐川町役場庁舎を主会場として8月28日(日)に行われました。訓練は、静岡県駿河湾を震源とする地震と紀伊半島南東沖を震源とする大規模な地震が連続で発生したことを想定して行われました。

住民の皆さんは避難広報により集会所などの一次避難所へ、町全域で約9000人が避難し、訓練には、10000人が参加しました。

主会場では、電気・水・ガス・道路・通信などの関係機関による復旧訓練や、女性防火クラブによる初期消火訓練、赤十字奉仕団による炊き出し、災害救助ボランティアによる炊き出し、負傷者搬送訓練など、さまざまな訓練が行われました。

今回の訓練で災害時の対応や、防災意識の高揚が図られたことでしょう。



▲建設業協会による道路確保訓練



▲消防団による一斉放水



▲災害救助ボランティアによる救助訓練

叙勲(瑞宝双光章)受章

5月31日(火)に亡くなられた小谷芳雄さん(北方)が瑞宝双光章を受章され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

小谷さんは、昭和46年4月から平成20年3月まで、教員として勤められ、その間、マスター・ラーニング(完全習得学習)の研究を行い、教育現場での授業分析をして修士論文を完成。また、岐阜県教育委員会指導主事や岐阜県関ヶ原青少年の家所長、西濃地域の小学校の校長を歴任されました。

これら生前の功績が認められ、今回の叙勲の受章となりました。この多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。



▲叙勲の伝達が行われました

親子でトウモロコシ収穫体験

8月6日(土)、NPO法人いびがわみずみずエコステーション体験農園(極楽寺)で、第5回いび地域環境塾として、トウモロコシの収穫が行われました。

この日は、揖斐郡内の親子約140人が参加して、自分たちで種をまいたトウモロコシの収穫をしました。

生ゴミを再利用して作った堆肥をすきこんでいる畑で育てたトウモロコシは最大で約30センチにまで育ち、甘い実をつけました。

参加者は、「焼きトウモロコシにして食べるのが楽しみ」と話し、収穫に喜びの声をあげていました。



▲トウモロコシ収穫の様子



▲協定書を手に石原署長（左）と宗宮町長（右）

8月9日（火）、揖斐川町役場で、地震などの災害で揖斐警察署の建物が倒壊した場合、防災センターを兼ねた揖斐川町庁舎を代替施設として利用することを定めた協定書の締結式が行われました。

警察署と地元自治体が、こうした協定を結ぶのは県内22署で初めてです。

揖斐警察署の石原治署長は、「町と力を合わせて地域の安全に貢献していきたい。」とあいさつされ、宗宮町長は、「東日本大震災の状況を見ても、警察の活動拠点確保の重要性は高く、いざという時に協力でできるように態勢を整えていきます。」と話しました。

揖斐警察署と協定締結

〈災害時施設利用〉



▲60万人の記念品を受け取る山村さん（左）

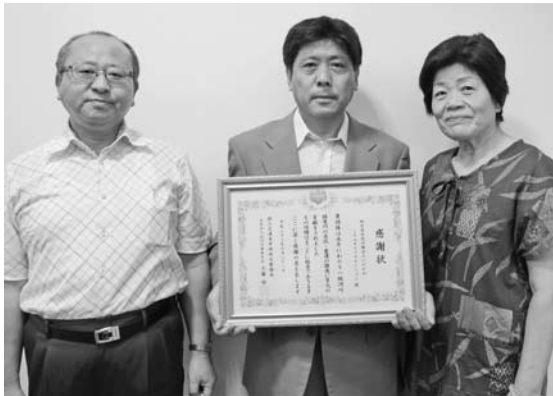
8月10日（水）、いび川温泉藤橋の湯の来場者が60万人に達し、いび川温泉藤橋の湯の玄関前で記念のセレモニーが行われました。

60万人目とその後の方には、揖斐川町の特産品や温泉入浴回数券などの記念品が宗宮町長から手渡されました。

60万人目の幸運をつかんだのは、垂井町からお越しの山村芽衣さんでした。

山村さんは、「藤橋の湯に来るのは初めてです。くじ運は悪いほうなので、自分が60万人目になるとはびっくりで、とてもうれしいです。」と話されました。

いび川温泉藤橋の湯 来場60万人達成



▲受賞おめでとうございます（中村理事長 中央）

12年前から毎年開催されている河川の一斉清掃「揖斐川流域クリーン大作戦」で、活動の中心となつているNPO法人いびがわミズみずエコステーション（理事長 中村賀久）が国土交通省から感謝状を受け、8月11日（木）、揖斐川町役場を訪れ、受賞報告を行いました。

中村理事長は、「NPO法人のネットワークが構築され、活動が広がっています。今後も行政や地域と連携して進めていきたい。」と話され、宗宮町長は、「揖斐川上流域の責任と誇りを持って活動を継続してほしい。」と受賞を称えました。

揖斐川美化で国交省から感謝状

〈いびがわミズみずエコステーション〉



▲よりよい食材提供のために活発な意見交換が行われました

8月12日（金）、揖斐川町学校給食センターで、学校給食食材供給に関する勉強会が開かれ、学校給食に食材を提供している農業生産団体など約10人が参加しました。

給食センターは、地産地消を目的として、地元の食材を使用しています。

勉強会では、子どもたちにより安心で安全なものを提供できるように給食センター職員らと給食の試食をして、意見交換を行いました。

参加した生産者からは、「必要な食材はいつ頃どれくらいの量が必要なのか作付け前に教えて欲しい。」「旬のものを子どもたちに食べさせたい。」などと積極的な意見が出されていました。

学校給食食材提供者勉強会

〈よりよい食材提供のために〉

三倉の太鼓踊

〜色鮮やかに乱舞〜

三倉の太鼓踊(県重要無形民俗文化財)が、8月15日(月)、三倉地区(久瀬)で行われました。

この踊りは、約700年前に源氏の武将たちが戦勝を祝って踊ったのがはじまりとされ、現在は雨乞いや無病息災を祈願する踊りとして、三倉古代太鼓踊り保存会が伝統を受け継いでいます。

幼児から70代までの30人が地域にある福田寺を出発し、峯神社の境内で踊りを奉納。背中に背負った色鮮やかなシナイが躍動感のある勇壮な舞を披露し、訪れた観衆を楽しませていました。



▲峯神社での奉納踊りの様子

春日川合太鼓踊り

〜力強い男衆の伝統の舞〜

8月16日(火)、春日川合地区で川合太鼓踊りが行われました。

川合太鼓踊りは、9人の踊り手と4人の笛で構成され、ボンデンという幣束をもつ踊り手が、列の先頭に立って踊りの指揮をとり、列の最後尾には「ヤクガシラ」という踊り手が太鼓を抱きかかえ、激しく動きながら太鼓を打ち鳴らすものです。

光明寺では大勢の見物客が見守る中、お盆の時期に合わせた力強くも華やかな先祖供養の舞が披露されました。



▲先祖供養の力強い舞(光明寺境内にて)

お十七夜コンサート

〜幻想的な観月音楽祭〜

8月17日(水)、谷汲山華厳寺の境内で、谷汲門前街並づくり委員会主催の「谷汲山観月音楽祭(お十七夜コンサート)」が開催されました。

コンサートでは、はじめに谷汲門前駐車場にある屋外ステージで揖斐川中学校の吹奏楽部が演奏を披露しました。その後、谷汲山華厳寺境内放生池前でマリンバとピアノの女性トリオ「凛」や二胡奏者の玉木鶯洞(たまきおどり)二胡トリオの美しい音色が響き渡り、約500人の聴衆を魅了しました。



▲マリンバ&ピアノ「凛」の演奏

揖斐川中学校北舎が完成

〜7部屋の特別教室〜

8月22日(月)、揖斐川中学校北舎の改築工事が完了し、竣工式が行われました。

北舎は、2階建てで、床面積が1480平方メートル。美術室や調理室、図書室などの特別教室を備えています。

竣工式では、くす玉割りやテープカットで新しい校舎の完成を祝い、生徒会長の河瀬侑大さん(3年生)は、「伝統の愛校心清掃で、新しい校舎をいつまでも美しく保ち、仲間と共に充実した学校生活を送りたい。」と述べました。



▲テープカットとくす玉割りの様子

小学生県外研修派遣事業（北海道芽室町・高知県宿毛市）

～ホームステイと農業・漁業体験と学校交流～

8月19日（金）から23日（火）まで、町内の小学校6年生20人が県外派遣研修で北海道芽室町と高知県宿毛市を訪問しました。

児童たちは、芽室町では農家にホームステイしてジャガイモやワサビの収穫などの農業体験を、宿毛市では、海でかご漁や手こぎ舟の操作を体験し、とれたての魚を自分でさばいて味わったり、沖の島でシユノーケリングなどを行い、岐阜県にはない「海」を体感しました。

参加した児童たちは、「広大な農地や涼しい気候にびっくりしました。」「宿毛市の海は水が澄んでいて美しく保全されていました。」などと揖斐川町とは異なる環境での体験に感動していました。

平成23年度県外研修派遣事業
参加児童

☆北海道芽室町（12人）

- 揖斐小学校 国枝 建太さん
- 高橋 寛和さん
- 井口 未蘭さん
- 林 里紗さん
- 牧村 庸平さん
- 中村 紫音さん
- 藤井 彩香さん
- 北方小学校 牧村 庸平さん
- 清水小学校 中村 紫音さん

☆高知県宿毛市（8人）

- 揖斐小学校 野中 将史さん
- 野原 祐実さん
- 増田 隆大さん
- 岩田 元さん
- 中村 美沙希さん
- 内藤 汰貴さん
- 神原 萌絵さん
- 高橋 美帆さん
- 小島小学校 安藤 永遠さん
- 長柄 芹さん
- 高橋 功也さん
- 河村 未唯さん
- 並河 初妃さん
- 久瀬小学校 久瀬 隆大さん
- 谷汲小学校 谷汲 隆大さん
- 清水小学校 清水 隆大さん
- 小島小学校 小島 隆大さん
- 久瀬小学校 久瀬 隆大さん



▲派遣団出発式



▲大型機械でのじゃがいも収穫（芽室町）



▲漁業体験 自分で魚をさばきました（宿毛市）

少年の主張岐阜県大会で3位

～谷汲中学校 高橋風弥さん～

「第33回少年の主張県大会わたしの主張2011」で3位となる県教育委員会賞を受賞した、谷汲中学校3年の高橋風弥さんが、8月24日（水）に揖斐川町役場を訪れ、受賞報告が行われました。

県大会は、8月5日（金）に飛騨市で行われ、高橋さんは、「美しい国日本」と題し、東日本大震災で互いに助け合う被災者を見て、日本人が持つ思いやりの美しい心に気付き、自分の生き方を見つめ直した経験を発表しました。

高橋さんは、「大会では、自分の思いをしっかりと伝えることができました。入賞できたことは、とてもうれしいです。」と話していました。



▲入賞おめでとうございます

藤橋どんどん開催

「山々に響き渡る歌声」

8月28日(日)、藤橋城広場(鶴見)で「藤橋どんどん」が開催されました。会場では、地元の特産品を販売するブースが並び、野外ステージでは、藤橋権現太鼓の演奏や幼児園児のダンスなどが披露され、約5000人の来場者で賑わいました。

午後からは、ぎふチャンラジオの公開録音が行われ、歌謡ショーで盛り上がりました。歌謡ショーには、水森かおりさん、森川つくしさん、ドリケンさん、そして揖斐川町出身の松田敏来さんが出演し、爽やかな歌声が来場者を魅了しました。
※歌謡ショーの様子は、9月3日(土)にぎふチャンラジオで放送されました。



▲多くの来場者で賑わいました

水道施設を美しく

「清掃奉仕活動」

8月19日(金)、揖斐川町の水道工事店有志15社によって、町内の水道施設(4か所)で、清掃奉仕活動が行われました。

この奉仕作業は毎年行われており、15事業所から各1人、計15人で早朝からお昼まで、水道施設やその周辺の草刈りに汗を流しました。施設周辺は、とてもきれいになりました。清掃奉仕活動に参加された皆さんありがとうございました。



▲清掃奉仕作業の様子

災害時輸送支援応援協定締結

「揖斐タクシー(株)」

9月1日(木)、揖斐川町役場で、災害時に住民が円滑に避難できるように揖斐川町と揖斐タクシー(株)が災害時輸送支援の応援協定を結びました。

協定では、町の要請に基づき、揖斐タクシーが輸送支援隊を組織して対応。大規模な自然災害が発生した場合に、高齢者など避難が必要な方や、病院への搬送が必要な場合の人的輸送を行います。
揖斐タクシーの久保田一成社長は「高齢者や障害者、負傷した方を病院に運ぶなど、災害時には素早く対応していきたい」とあいさつされ、宗宮町長は「山間の狭い道にも対応できる搬送手段は心強いです。」と話しました。



▲協定書を手に久保田社長(左)と宗宮町長(右)

揖斐川町災害ボランティアセンター基本協定調印式

「ボランティア」

9月6日(火)、揖斐川町役場で、災害ボランティアセンターの設置に関する基本協定の調印式が行われました。

協定を結んだのは、揖斐川町と社会福祉法人揖斐川町社会福祉協議会で、災害ボランティアセンターの設置等に関するそれぞれの役割を明確化し、災害時におけるボランティアセンターの設置と、その活動がスムーズに実施できるようにすることを目的としています。

今後は、両者が連携した活動ができるよう、実施マニュアルが作成され、災害時に備えます。



▲協定書に署名する樋口会長(右)と宗宮町長(左)